

史跡名勝天然記念物の指定等

《史跡の新指定》 2件

1 かなくらのやま こふん 金蔵山古墳【岡山県岡山市】

金蔵山古墳は、岡山平野の中央部、みさおやま操山丘陵に立地する、古墳時代前期末から中期初頭に築造された墳長約158mの前方後円墳である。後円部、前方部ともに3段築成で、墳端部には低いテラス状の段がつき、西くびれ部には造り出し、東くびれ部には島状遺構がある。昭和28年に倉敷考古館による発掘調査が後円部墳頂を中心に行われ、2基のたてあなしきせきしつ竪穴式石室、副葬品用の小石室（副室）、これらに伴う豊富な副葬品や、それぞれの石室の上部に板石と盛土で構成されるほうけいだん方形壇とこれに伴う方形埴輪列などが確認された。

平成26年度から令和4年度に岡山市教育委員会により発掘調査が行われ、墳丘規模や構造などが確認された。造り出し上面では、円筒埴輪とさくがた柵形埴輪で区切った空間に家形埴輪、かこいがた冪形埴輪などを配置する。島状遺構上面では柵形埴輪で区画した中に家形埴輪や蓋形埴輪等を配置し、しょくもつがた どせいひん ざるがた食物形土製品や笊形土器を用いた祭祀が行われたと考えられる。墳丘と島状遺構間の谷部では、どうすい しせつ導水施設に関わる木樋と水槽が床面に表現された家形埴輪とこれを冪う冪形埴輪、柵形埴輪が出土した。

金蔵山古墳は、古墳時代前期末から中期初頭の中国・四国・九州地域における最大規模墳で、後円部の埋葬施設や副葬品に加え、後円部墳頂、造り出し、島状遺構それぞれで埴輪や土器の組成や配置方式が明らかになっている吉備を代表する首長墓である。墳丘構造や副葬品、体系的な形象埴輪群からはヤマト政権との密接な関係とともに、ちゆうぞう鑄造鉄斧には朝鮮半島との交流をみることができ、吉備の地域首長の実態とその動向、ヤマト政権の政治的動向を考えるうえで重要である。

2 いずみじょうあと いずみし 出水城跡【鹿児島県出水市】

肥後に接する国境の要地に位置する戦国時代から江戸時代初期を中心に機能した大規模なぐんかくしき群郭式の山城。15世紀から16世紀は島津氏の有力なしよしけ さっしゆう庶子家である薩州島津家の拠点城郭であり、16世紀末以後は島津氏本家が領有する国境の城として機能した。

貿易陶磁器の中には、中国南部産陶磁器や東南アジア産陶磁器が確認でき、薩州島津家の経済基盤となる海外交易の実態を示すほか、ますがた枡形を意識した曲輪やしよくほうけい織豊系軒瓦の存在からしよくほうけいじょうかく織豊系城郭技術の影響もうかがえる。また、城内からは近世瓦や薩摩焼などが出土しており、江戸時代においても、鹿児島藩最大規模のとじょう外城に付随する古城として、管理等が行われていた可能性を示す。

出水城跡は、国境の要衝に位置する島津氏の拠点城郭の実態を示すものであり、戦国時代から江戸時代初期にかけての南九州の政治状況の変化及び島津氏の防衛政策の在り

方を知るだけでなく、当該期の社会の動向を知る上で重要な城跡である。保存状態も良好であり、南九州における山城の築城技術を知る上でも重要。

《特別史跡の追加指定》 5件

1 ^{いちじょうだにあさくら し い せき} 一乗谷朝倉氏遺跡【福井県福井市】

戦国大名朝倉氏の居館を中心に、武家屋敷や町屋、寺院等で構成された遺跡である。今回、既指定地の北側に隣接する下城戸地区で、土塁や外壕、屋敷地跡が良好に残る一乗谷川右岸部を追加指定する。

2 ^{ひめ じ じょうあと} 姫路城跡【兵庫県姫路市】

播磨平野の中心の姫山に築かれた平山城で、羽柴秀吉がその基礎を築き、慶長5年（1600）に池田輝政が大改修した、天守建築が完存する日本を代表する城郭。今回、発掘調査で明らかとなった、西国街道が通る重要な柵形門の跡である備前門跡^{び ぜんもんあと}の一部を追加指定する。

3 ^{ふじわらきゆうせき} 藤原宮跡【奈良県橿原市】

^{じとうてんのう} 持統天皇8年（694）から^{わ どう} 和銅3年（710）まで営まれた古代都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏^{だい り}、大極殿及び役所群^{だいごくでん}が建てられた。今回、北端等条件の整った部分を追加指定する。

4 ^{いわ せ せんづか こ ふんぐん} 岩橋千塚古墳群【和歌山県和歌山市】

和歌山平野の東側、紀の川南岸の岩橋山塊^{き かわ いわ せ さんかい}において、古墳時代前期から終末期にわたり築造された978基からなる日本有数の大規模古墳群。ヤマト政権の政治的動向と地域におけるその影響の在り方を、古墳時代の大半の時期において示す古墳群として学術的価値が極めて高い。今回、寺内地区を中心とする条件の整った部分を追加指定する。

5 ^{はる つじ い せき} 原の辻遺跡【長崎県壱岐市】

弥生時代中期から後期にかけての大規模環濠集落跡^{かんごうしゅうらくあと}。多量の大塚系遺物が出土していることから、対外交渉の窓口としての性格を有した遺跡であり、『魏志倭人伝』に記された「一支国」^{い き ぐく}の中心集落として重要である。今回、条件の整った範囲を追加指定する。

《史跡の追加指定及び名称変更》 4件

1 びんまん じ あと いぬかみぐん た が ちやう **敏満寺跡【滋賀県犬上郡多賀町】**

12世紀後半から16世紀後半に営まれた全国有数の規模を持つ中世墓である史跡敏満寺石仏谷墓跡に、敏満寺の坊跡群、及び靈験所として機能した青龍山一帯を追加指定し、敏満寺跡へ名称変更する。

2 さぬきへん ろ みち あやうたぐん う た づ ちやう さかいでし みとよし ぜんつうじし かんおんじし **讚岐遍路道【香川県綾歌郡宇多津町・高松市・坂出市・三豊市・善通寺市・さぬき市・観音寺市】**

だいこう じ みち
大興寺道

まん だ ら じ みち
曼荼羅寺道

まん だ ら じ けいだい
曼荼羅寺境内

しゅつしゃ か じ けいだい
出釋迦寺境内

こうやま じ けいだい
甲山寺境内

ぜんつう じ けいだい
善通寺境内

どうじやう じ ごうじやう じ けいだい
道場寺（郷照寺）境内

ね ごろ じ みち
根香寺道

ね ごろ じ けいだい
根香寺境内

こくぶん じ みち
國分寺道

し ど じ けいだい
志度寺境内

なが お じ けいだい
長尾寺境内

おおくぼ じ みち
大窪寺道

おおくぼ じ けいだい
大窪寺境内

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の讚岐国（香川県）部分。第78番札所道場寺（郷照寺）境内、第81番白峯寺から第82番根香寺に向かう根香寺道、第82番根香寺から第80番國分寺に向かう國分寺道、第87番長尾寺境内を追加指定する。

3 と きへん ろ みち こう ち けんむろ と し すくも し と さ し みず し は た ぐん おおつきちやう **土佐遍路道【高知県室戸市・土佐市・高知市・宿毛市・土佐清水市・幡多郡大月町】**

ほつ み さき じ みち
最御崎寺道

こんごうちやう じ みち
金剛頂寺道

こんごうちやう じ けいだい
金剛頂寺境内

こうのみね じ みち
神峯寺道

ちくりん じ みち
竹林寺道

ぜんじぶじみち
禅師峰寺道
きよたきじけいだい
清瀧寺境内
しょうりゅうじみち
青龍寺道
えんこうじみち
延光寺道
こんごうふくじみち
金剛福寺道
かんじざいじみち
観自在寺道

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の土佐国（高知県）部分。今回、第36番青龍寺に向かう青龍寺道、第38番金剛福寺から、番外札所月山つきやまを通り第39番延光寺へ向かう延光寺道を追加指定する。

4 やめこふんぐん 八女古墳群 やめし やめぐんひろかわまち 【福岡県八女市・八女郡広川町】

のりばこふん
乗場古墳
せきじんさんこふん
石人山古墳
いわとやまこふん
岩戸山古墳
ぜんぞうづかこふん
善蔵塚古墳
こうかだにこふん
弘化谷古墳
まるやまづかこふん
丸山塚古墳
まるやまこふん
丸山古墳
ちやうすづかこふん
茶臼塚古墳
くぎさきにごうふん
釘崎二号墳
つるみやまこふん
鶴見山古墳

みのう 耳納山地南緩斜面から西へ延びる八女丘陵上に立地する、つくしのきみいわい 筑紫君磐井の一族との関連も考えられる九州地域で著名な古墳群の一つ。石人山古墳と岩戸山古墳の間の時期の首長墓に位置づけられる釘崎二号墳、岩戸山古墳に後続する首長墓に位置づけられる鶴見山古墳を追加指定する。

《史跡の追加指定及び一部指定解除》 1件

1 にしづかこふん 西塚古墳 みかたかみなかぐんわかさちよう 【福井県三方上中郡若狭町】

ぜんぶやま 背後に膳部山を備える小規模な扇状地である脇袋わきぶくろに立地する、古墳時代中期後葉に築かれた墳長約74mの前方後円墳。だいかやさん 大加耶産と考えられる器物を含む豊富な副葬品が出土する等、当該期のヤマト政権の政治的動向とともに、朝鮮半島との対外交渉を担った地域首長の実態を知る上で重要。現在の指定地番に錯誤のあった部分を一部指定解除

し、墳丘および周濠のうち条件の整った部分を追加指定する。

《史跡の追加指定》 10件

1 そうじゃ こ ふんぐん まえばし し 総社古墳群【群馬県前橋市】

とお み やま こ ふん

遠見山古墳

ふた こ やま こ ふん

二子山古墳

あた ご やま こ ふん

愛宕山古墳

ほうとうざん こ ふん

宝塔山古墳

じゃけつざん こ ふん

蛇穴山古墳

群馬県の中南部に所在する5世紀後半から7世紀後半にかけて首長墓が連綿と築かれた古墳群。各古墳は畿内地域との深い関連をうかがわせる要素を有しており、古墳時代中期から終末期の地域首長の動向やヤマト王権との政治的関係を知る上で重要。今回、二子山古墳の条件の整った部分を追加指定する。

2 でんほりごえ こしよあと い ず くにし 伝堀越御所跡【静岡県伊豆の国市】

対立する古河公方足利成氏を討ち関東を支配するため、室町将軍足利義政が還俗させ派遣した異母兄・足利政知の館跡と伝わる遺跡。伝承では鎌倉時代に北条時政が構えた館の故地に営んだとされる。今回、これまでの調査で検出された園池に関連する場所を追加指定する。

3 かいがらやまかいづか きよ す し 貝殻山貝塚【愛知県清須市】

弥生時代前期に営まれた貝塚を伴う環濠集落跡。遠賀川系土器と在地の縄文系の系統を引継ぐ条痕文系土器が共伴し、西日本を中心とする前期弥生文化が東海地方に定着していく実相を示す遺跡として重要。今回、条件の整った範囲を追加指定する。

4 おう み おおつのみやしこおり い せき 近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】

667年、天智天皇が飛鳥から遷し、琵琶湖西岸に営んだ古代の宮跡。672年、壬申の乱で廃絶した。これまでの発掘調査によって、内裏正殿、南門、回廊、塀等の宮跡中枢部分が見つかっている。今回、内裏正殿と同規模の廂付掘立建物の北西部にあたる地点を追加指定する。

5 さかもとじょうあと 坂本城跡【滋賀県大津市】

坂本城跡は、織田信長配下の有力武将である明智光秀の居城であり、琵琶湖を通じた京への流通拠点に築城された政治的、軍事的、経済的に重要な城跡。織豊系城郭の立地や構造、築城技術を知ることができる。今回、本丸南端の石垣を検出した範囲を追加指定する。

6 ふくばるちやうじゃばるかん が い せき ゆくはしし 福原長者原官衙遺跡【福岡県行橋市】

7世紀末から8世紀前半の古代官衙遺跡で、規模の大きな区画施設や掘立建物等、他の地方官衙を上回る規模を持つ。構造や出土遺物から地方に造営された枢要な国家的施設と考えられ、律令国家成立期の地方統治の実態を知る上で重要な遺跡。今回、政庁南門南側周辺を追加指定する。

7 だいぼう こふん たまなし 大坊古墳【熊本県玉名市】

玉名平野を臨む臼間山地うすまの南側丘陵に立地する、6世紀前半から中頃に築造された墳長約42.3mの前方後円墳。横穴式石室内の石屋形を中心に、彩色による三角文と円文の装飾が施される。今回、条件の整った部分を追加指定する。

8 おおとも し い せき 大友氏遺跡【大分県大分市】

戦国大名大友氏の領国支配の拠点となった遺跡である。巨大な土塁と堀跡が残り軍事的性格の強い上原館跡うえのはるやかたあとのうち、今回、北西張り出し部を追加指定する。

9 ちやたんじょうあと なかがみぐんちやたんちやう 北谷城跡【沖縄県中頭郡北谷町】

13世紀後半から16世紀前半にかけて、沖縄本島西海岸沿いの舌状丘陵に石垣・切岸を伴う5つの郭が展開した城跡グスク。今回、東グスクあがりの北側及び東側の斜面から麓にかけた部分を追加指定する。

10 なかがすく みち なかがみぐんなかがすくそん 中城ハンタ道【沖縄県中頭郡中城村】

14世紀後半から17世紀後半まで、首里から中城城を経て勝連城までを結ぶ主要道であり、琉球における交通・土木の歴史を理解する上で重要。今回、新垣地区に所在するペリーの旗立岩の周辺を追加指定する。

《名勝の新指定》 1件

1 しらい たき 白猪の滝 とうおん し 【愛媛県東温市】

白猪の滝は、松山平野東部の南方にそびえる皿ヶ嶺（標高1,271m）に連なる峰々の北斜面に所在する河之内問屋地区の山間部、白猪峠（標高1,116m）へと続く峠道西側の標高580～670m付近に位置する。四国最高峰の石鎚山（標高1,982m）から西方に伸びる皿ヶ嶺連峰は、南斜面が緩やかであるのに対し、平野に面する北斜面は急傾斜を成して数多くの滝が見られ、それらの中でも、重信川に注ぐ表川の支流に懸かる白猪の滝は、四季を通じて傑出した風致景観を呈する。瀑布を成す懸崖は柱状節理が発達した石鎚層群の輝石安山岩から成り、落差約84mを2段で流れ落ち、滝壺からさらに高さ5mほどの小さな滝を成して、全体として3段に落ちるように見える。このような白猪の滝の相貌は雄壮で、白い飛沫を纏って、春のヤマブキやフジ、夏の新緑、秋の紅葉などが優れた風致景観を修飾する。特に厳冬期に見られる氷瀑の荘厳な絶景は風物詩として定着しており、地域内外の多くの人びとを魅了している。河之内村の篤志家・近藤林内によってよく見出されて近代以降に世に知られるようになり、明治20年代には正岡子規や夏目漱石も訪れてその壮観を讃える句を残した。

《名勝の追加指定》 1件

1 ようすいえん 養翠園 はるとみ 【和歌山県和歌山市】

紀州藩第10代藩主治寶が、文政元年（1818）から8年にかけて水軒御用地に造営した潮入りの池泉庭園。庭園内にあつて地籍調査により明らかになった未指定地を追加するもの。

《天然記念物の新指定》 1件

1 ^{かねやま}金山の^{じせいち}ビャッコイ自生地【福島県白河市】

ビャッコイは、カヤツリグサ科ビャッコイ属の多年生草本で、カヤツリグサ科では珍しい沈水～抽水植物である。ビャッコイは、日本とインドネシア(ニューギニア島西部)、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドに分布している。白河市表郷金山の湧水地は日本で唯一、かつ北半球で唯一の自生地である。1905年に牧野富太郎によってカヤツリグサ科広義ホタルイ属の新種として学名 *Scirpus pseudofluitans* Makino、和名「ビャッコイ」・「ウキイ」の名で発表された。その後の研究で、オーストラリアやインドネシアなどの南半球を中心に分布する種と同種とされ、顕著に地理的隔離された分布北限地であることが明らかになった。白河市表郷金山のビャッコイ自生地は、植物の隔離分布に関する知見を提供する試料として植物地理学的、系統分類学的に高い価値を有する。また、かつて国内の数カ所で確認された自生地のなかで消滅することなく残り続けた稀有なものであり、日本唯一の自生地として貴重なものである。これらのことから国の天然記念物に指定して一層の保護を図るものである。

《天然記念物の追加指定及び一部指定解除》 1件

1 ^{かた た ごうはちまんしゃ}堅田郷八幡社の^{りん}ハナガガシ林【大分県佐伯市】

堅田郷八幡社のハナガガシ林は、四国南部及び九州南部において局地的に見られるハナガガシが生育する社叢である。平成16年の国土調査に基づく^{あざず}字図の再編により地番の錯誤が生じたことが判明したことから、これを是正するために追加指定及び一部解除するものである。

《天然記念物の指定解除》 1件

1 ^{く め ご え}久米の^{しまじりぐん く め じまちょう}五枝のマツ【沖縄県島尻郡久米島町】

久米の五枝のマツは、平成9年に天然記念物に指定されたリュウキュウマツの巨樹である。久米島では令和3年夏頃から松くい虫被害が確認されたため、薬剤の^{じゆかん}樹幹注入や散布などの対策を行ってきた。しかし、令和7年6月に感染が確認され同年8月26日に^{こし}枯死と診断されたため、解除するものである。